福祉国家の規範と公共性に関するシンポジュム　議事録

日　時：2004年2月14日(土)　午後1：00～6：00
　　2月15日(日)　午前9：00～12：00
場　所：立命館大学創思館4階プロジェクト研究会室401・402

2月14日(土)

司会者：今田高俊氏挨拶
参加者自己紹介

午後1：00～1：45
発表者：塩野谷祐一（一橋大学名誉教授）
テーマ：福祉の公共哲学における残された課題

1．　規範理論の対立は残されたままである。
・ 4つの規範理論（功利主義・社会契約主義・自由至上主義・共同体主義）の対立的並存と、ロールズの重複的合意との関係をどのように見るか。
・ overlapping consensus の代わりに partitioning consensus（住み分け）を考える。

2．　一見対立する思想の批判的整合化こそが、本来の哲学の仕事である。
・ 哲学の仕事の分野
（1） 存在論（形而上学）－思想ないし知識の対象（存在としての世界）とは何かを問う。
（2） 認識論（方法論）－知識を獲得し正当化する方法を問う。
（3） 価値論（倫理学）－（1）存在論＝観念論の要素と（2）認識論＝経験論の要素の間で揺れ動くのが知識である。両者をとらえる視点として pragmatism における知識の社会的形成とプラグマティックな有用性が重要→（3）倫理学との整合。
・ 我々のこれまでの議論に欠けているのは前者2つである。価値判断だけでは対立解消はできない。→post-positivism の文脈にて考える。

3．　抽象的・一般的レベルでの福祉の議論のみでは、福祉国家論としての実践的迫

力に乏しい。

- 個別レベルにおける哲学の不可欠性。顔見知り集団における個々人の直接的関係の倫理を府県化することが理論的課題
- 「正（正義）・徳（卓越）・善（効率）」の区分で言えば「徳」の倫理学の重要性
- 人間存在の卓越と vulnerability＝徳の倫理学の両面をなす。

〈質疑応答〉

山脇氏：抽象的な議論である。存在論について特に引っ掛かり。存在論は不要なのか？

塩野谷氏：存在論が不要とは述べていない。無意識的なものを意識的にするのが哲学である。

山脇氏：overlapping consensus の代わりに partitioning consensus（住み分け）を考えるという塩野谷説についての質問。

塩野谷氏：対立は、overlapping consensus（ひとつの場所に大勢が殺到する）によって起こる。partitioning consensus の重要性を強調。

盛山氏：哲学の包括性という点に関しての質問。認識論と存在論の社会（自然ではなく）への対応についての意見（社会学の立場から）。

認識論の基準＝何らかのデータの検証とはどういうことか？

塩野谷氏：自然科学と社会学は違うけれども、検証されていないことには意味がない。

今田氏：顔見知り集団における個々人の直接的関係の倫理を府県化することが理論的課題、という塩野谷論について、詳細な説明を求める。

塩野谷氏：説明。ロールズの政治的コンセンサスは道徳的コンセンサスと考えてよい。

盛山氏：ロールズ解釈についての意見。

今田氏：コールバーグの partitioning について。

午後 1：45～2：30

発表者：山脇直司（東京大学大学院総合文化研究科教授）

テーマ：『福祉の公共哲学』第一章　社会保障論の公共哲学的考察

公共哲学とは一体何か？コンセプトの多義性。

1．　Public の概念

a) 公開の not hidden

b) 政府の governmental

c) 人々がかかわる、人々のための for anyone

公共事業・公共経済学－b）の意味、アーレント－a) b) c)、ハーバーマス－a) c)

→・governmental, official

・ public common

・ private の「相互作用的三元論」導入の必要性→記述概念、規範概念にもなりうる。→社会保障論の展開

2． アーレントやハーバーマスの難

パラダイム自身に無理がある。経済活動の公共的次元の論理、ルールの欠如。

3． 社会保障史の公共哲学的再構成

4． 現代的展望と課題

・ 現代の英米系政治哲学を背景とした社会保障論の展開の可能性。

・ 公共哲学の学問的理念－－基本的に学術性を前提、社会が現に「ある」姿の経験的考察と、「あるべき」理想社会についての理念的構想、政策が「できる」実現可能性の洞察、を区別しつつも切り離さずに論考する学問。→社会保障論（「制度の現状分析、制度設計の哲学的理念、具体的な政策提言」が総合的に論考されるような）の展開の可能性。

〈質疑応答〉

立岩氏：経済活動の公共的次元とは？その可能性は？

山脇氏：経済活動の暗黙の公共的ルール－道徳感情論の重要性、公共財の概念などの説明。義務やルールのレベル、virtue のレベル、制度のレベルなど。

後藤氏：「資本主義」の概念が気になっている。経済と社会保障の今後の課題についての質問。最低賃金制の問題など。

盛山氏：公共哲学の課題と、社会保障論がどのように位置づけられるのか不明瞭。

塩野谷氏：山脇氏は、公共の定義づけはしているが、公共哲学については定義していない、と指摘。→山脇氏ｖｓ塩野谷氏しばし継続。

山脇氏：公共性をどうとらえるかによる。またさまざまな問題にあてはまる。どの分野でも公共哲学はありえる。

午後 2：30～3：15

発表者：渡辺幹雄（山口大学経済学部助教授）

テーマ：ロールズの福祉国家はコミュニタリアン的か？

－小林論文「福祉の公共哲学をめぐる方本論的対立」について－

塩野谷説（リベラリズム）vs 小林説（ロールズの福祉国家はコミュニタリアン的）についての検討。

小林論・ロールズの論理＝方本論的に原子論的でありそれが自己観にも反映→ロールズ

的正義論にはコミュニタリアニズム的ないし共和主義的な福祉理論への転生することになる。
しかし、

- ロールズの自己観が存在論的原子論であるという主張は初期のサンデルの誤解である。
- 小林氏は、方本論的原子論と存在論的全体論の対立－本来対立しないはずの－というカテゴリーミステイクを犯している。
- コミュニタリアニズムと共和主義の関係について

小林論は二重に修正されるべき

1. ロールズ正義論ははじめから共和主義的であってそれに転生したのではない。
2. 共和主義的ではあっても断じて（サンデルの意味で）コミュニタリアニズム的ではない。

〈質疑応答〉
山脇氏、森村氏：ロールズにはコミュニタリアン的要素があると思う。
後藤氏：ロールズはリベラリズムである。また共和主義の定義についてのコメント。ハーバーマスのロールズ批判についてのコメント。
渡辺氏：正義の論理についてハーバーマスとロールズの見解についてコメント。
後藤氏：共同体という概念の重要性とロールズの関係性について。
盛山氏：小林論の擁護、原子論的リベラリズムの説明。
日本大学堀氏：コミュニタリアニズムの想定する自己像－苦悩し続ける自己－をどう考えるか？コミュニタリアニズムは魅力的か否か？
渡辺氏：コミュニタリアニズムを完全に網羅していないため、コミュニタリアニズム的自己一般については言及できない。サンデルに特化してコメント。
塩野谷氏：注意。「方法」と「方法論」とは違う。ターミノロジーの混同はいけない。

午後3：45～4：30
発表者：森村進（一橋大学法学部教授）
テーマ：「福祉の公共哲学」への部分的な感想

渡辺、長谷川、今田、立岩、新川、宮本論文についての感想

〈質疑応答〉
今田氏：ドーキンも今田氏もあるタイプの人間像（ケアする動物）を不当に普遍化している、という森村氏の意見に対する反論。ケアの原点についての説明。

小泉氏：森村リバタリアニズムに対する共感と疑問をコメント。リバタリアン的政策ポリシーは実現できるのか？
森村氏：リバタリアンの立場（非暴力である、啓蒙はＯＫなど）の説明。
後藤氏：ミニマムな福祉は保障する、と消極的な自由、というテーゼ、対立についての説明を求める。
森村氏：氏の立場を説明。
盛山氏：市場の整備（公共財）とさまざまな諸活動（自由を使って人々は何ができるか）、という矛盾と調節の必要性についてコメント。
塩野谷氏：自己所有権には二つある。（所有する自己、所有される自己）
リベラリズムは、その二つを混同している。リベラリズムは道徳理論ではない。
今田氏：リベラリズムの立場から「差別」「弱者」をどうとらえるのか。放っておくのか？
森村氏：リバタリアン思想の普及に対する使命感を言及。
立岩氏：立岩論の説明。リバタリアンの欠点についてボードにて指摘。

午後 4:30～5：15

発表者：宮本太郎（北海道大学大学院法学研究科教授）
テーマ：福祉国家再編の新しい対立軸　レジプロティのゆくえ

1．　規範的対立軸の再整理　社会的包摂の諸戦略
サービスインテンシブモデル、ワークファーストモデル
ワークフェア、アクティベーション、ベーシックインカム
・スウェーデン社民党と緑の党を例に各立場を説明
2．　レシプロシティの政治学　ホワイト、フィッツパトリックの理論を中心に。
２－１．社会権の承認、社会的責任、分配原理の３点から規範理論を整理
２－２．ベーシックインカムを超えて
・レシプロシティ概念について、立岩＆盛山論を例えにあげて説明。
・ホワイトの議論－ワークフェアないしアクティベーションとベーシックインカムの結合を狙う。
所得保障の二層システム
1．　所得比例型で所得保障
2．　時間限定型のベーシックインカム
・ サバティカルアカウント
・ ベーシックキャピタル

〈質疑応答〉
盛山氏：理論的対立は、具体的に政党政治との関連でどのような状況で起こっているのか？
宮本氏：政治（政党政治）と理論対立の具体例を紹介。スウェーデンの実例（社民党と緑の党の対立例）。
後藤氏：アクティベーションと unpaid work（例えば家事、育児など）に関して質問。
宮本氏：ケア、労働、労働の３関連をボードで説明。
盛山氏：北欧型の手厚い制度内での内部的対立なのではないか。日本社会ではこの問題自体が成り立たないのではないか。この対立は普遍的なものか、限定的なものか？
宮本氏：ベーシックインカム vs アクティベーションの対立については、盛山氏の指摘どおりであろう。日本に近づけて考えれば、ワークフェア的な展開で見ている。
塩野谷氏：市場、家族、国家の welfare における関係性についてコメント。

午後５：15～6:00
発表者：新川敏光（京都大学大学院法学研究科教授）
テーマ：なぜ改革は進まないか：「福祉国家の新しい政治」

１．　福祉国家の新しい政治
古い政治：福祉国家の発展の政治←階級的権力資源動員論
新しい政治：福祉国家縮減の政治－政策的な安定性がある。

福祉国家が発展する場合の論理（＝手柄争い）と縮減する場合の論理（＝非難回避）の違い
非難回避戦略
Ⅰ．アジェンダの制限
Ⅱ．争点の再定式化
Ⅲ．可視性の低下
Ⅳ．スケープゴードの発見－年金制度では世代間の対立（不均衡）、社会的対立を煽るため、非常にリスクが高い。
Ⅴ．超党派的合意形成

２．　我が国の年金政治
非難回避戦略の推移

〈質疑応答〉
宮本氏：福祉縮減に関し、日本政治と欧米政治の比較を軸にコメント。
盛山氏：非難回避戦略において、政治家の立場は理解できたが、官僚の立場はどうなのか？
新川氏：福祉発展の流れ＝手柄争いにおいては政治家の主導。８５年以降は官僚のイニシアティブが増している、とコメント。

2月15日（日）

司会者：山脇氏挨拶

午前 9：00～ 9：45
発表者：盛山和夫（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
テーマ：福祉にとっての平等理論－－責任－－平等主義批判－－

1．　福祉制度は平等主義理論によって支えられているか？
2．　ドゥオーキンとレーマーにおける責任－－平等主義
　2．1　ドゥオーキンの資源平等論
　2．2　レーマーの機会の平等：努力性向という環境
　2．3　ロールズにおける責任－－平等主義
3．　責任－－平等主義の批判
　3．1　スティグマと強制
　3．2　道徳理論一般における責任主義の誤謬
4．　共同生産システムにとって平等をどう考えるべきか
　4．0　自明視された「平等」から、理由を求められる「平等」へ
　4．1　独立農民か共同生産システムか
　4．2　外面的平等と道徳的平等

〈質疑応答〉
渡辺氏：理論と責任の概念についての感想、確認。ロールズと絡め、ドゥオーキン自身の立場についての質問。
盛山氏：ドゥオーキン自身は責任というコンセプト自体に関してはあまり記述していない、

とコメント。
今田氏：リベラリズムにとっての責任（外在的、内発的どちらか？外在的な責任だけか？）と福祉とのつながりは？
盛山氏：福祉とは結びつかない、と言及。内発的か、外在的か、という質問に対し、リベラリズムは、自律性に重きを置く、とコメント。ドゥオーキンの論には、権利概念は入り込んでいない。
立岩氏：責任概念、自由という概念に関するコメント。
渡辺氏：リベラリズムの責任概念＝自律的に判断、行動したもの以外は責任を問われない。サンデルはそれに異論を唱えた。
後藤氏：ドゥオーキンの「倫理的責任」概念を説明。資源の再配分、保険、共同体、など。
今田氏：liability, accountability, responsibility, すべて日本語では「責任」と訳される。その違い？責任概念の外在性、内在性。

午前 9：45～10：30
発表者：今田高俊（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）
テーマ：ケアの倫理と福祉国家

福祉国家の限界。正義論の行き詰まり。人間存在のあり方についての考え方を根本から見直す必要。

1. 福祉国家の危機
2. 揺らぐ福祉国家の哲学――リベラリズムを超えて
3. ケア論による社会再編の原理
   人間存在の根本的在り方－他者との関わりの重要性。
   正しい意味での他者性の導入→ケアの倫理＋正義の倫理
   - ケアの倫理＝人間関係の手当、非暴力の原則、共生社会
   - 正義の倫理＝諸権利の擁護、平等な処遇の原則、競争社会
4. ケアと社会政策
   教育、共助の育成、市場の福祉化

〈質疑応答〉
立岩氏：今田氏は、ケアにたいしての確たる立場があるのに対し、正義に対するかくかくしかじか、という概念があやふや。必要ではないか？
今田氏：ケアと正義の位置関係。正義をケア化したい。ケアの制度化への期待。
小泉氏：今田氏の志はヒューム的。人間存在論は余計ではないか。ケアの基礎付けは無理ではないか。

盛山氏：リベラリズム（＝ロールズ理論）が福祉国家を支えている、という前提への疑問。正義とケアの対比に対する氏の立場を言及。ケアの倫理を制度論に持って行かなければいけないのでは。

渡辺氏：今田氏にはカントコンプレックスが基礎にあるのではないのか？ケアを普遍化、抽象化することによってケアを防衛しようとしているのではないか？カントの二元論（本質とは）。

今田氏：普遍と本質は違う。ケアは本質（たとえ普遍ではなくても）である。

塩野谷氏：今田氏の試みには共感。徳（卓越）の倫理のひとつとしてケアの位置づけがある、とする氏の立場。

午前 10：30～11：15

発表者：後藤玲子（国立社会保障・人口問題研究所企画部第 2 室長）

テーマ：現実の福祉国家に見られる〈一方向的な相互性〉と規範理論の役割

1．　問題設定：評価とそれを支える公正性・相互性

- 市場的評価（価値＝価格）
- 標準的評価（willingness to pay）
- 共同体的評価（家族、地域共同体）
- 目的集団的評価（企業、ＮＰＯ）

→いずれの評価の元でも暮らして／正当に扱われない人がいる→公共的評価の必要性

2．　経済的給付（一方向的な行為）の理由

- 市民的自由の実質的手段化：社会的被害、機会の不平等の補償
- 社会的、経済的不利益に直結する
- いま在る生の尊重、保障

3．　制度の構想：従来の枠組みを超えて（家族、企業、国家など）

1）ルールを介した相互性　①contingencies：substantive な相互性

②他者もまた期待できる：procedural な相互性

2）political ideals をベースとする重複的福祉保障システム（ロールズ＋セン）

・position 配慮的公共的ルール

〈質疑応答〉

小泉氏：経済的給付の理由、ルールを介した相互性に対する質問。

今田氏：position 配慮的公共的ルールは、ケアの倫理である、との感想。

午前 11：15～12：00

発表者：立岩真也（立命館大学大学院先端総合学術研究科助教授）

テーマ：私的所有論と福祉国家

生産と所有、分配の原理についての氏の新しい論（生産と所有を切り離して考える）をボードにて説明。詳細については氏の著『自由の平等――簡単で別な姿の世界』（岩波書店、２００４年）を参照されたし。

・ 分配の存在性質について

〈質疑応答〉

今田氏：立岩論の詳細な説明を求める。何が新しいのか？

渡辺氏：既存の論＝再分配、立岩論＝分配の理論（ロールズの論）≠再分配の理論

渡辺氏：分配と倫理的な問題。働けるけれども働かない人間に対する態度。立岩氏は強制するのか？

今田氏：市場の分配メカニズムについて質問、コメント。

盛山氏：市場という制度について。

渡辺氏：立岩論では、傾斜配分、インセンティブの問題を考えると、既存の理論（再分配）に寄っていかないか？

立岩氏：結果が歩み寄っても、モデルが異なるということに意味はある。

盛山氏：保険（強制保険）に関するコメント。